

7 キャンパス等充実に関する事項

1 施設・設備・備品等について

本学における施設・設備・備品等は、長期計画による教育・研究・エクステンション等の諸政策に則し、長期財政計画と各キャンパスの立地条件を踏まえながら計画的に整備していくこととしている。各キャンパスとも、設置学部の特性、地域性、キャンパスの歴史等を勘案しつつ、次の視点に基づき整備を行った。

- ①本学が展開する多様な教学活動を支え、その効果が十分あげられるよう整備する。
- ②学術研究・諸科学の発達に十分対応し得るよう、計画的に整備する。
- ③「課外活動基本方針」に基づき、学生の意見を聞きながら計画的に課外活動施設等を整備する。
- ④施設・設備等を地域社会に開放し、地域社会に貢献するキャンパス創りを目指す。
- ⑤大学構成員の意見を聞きながら支援施設・設備を充実し、これらを含めたキャンパスアメニティーの向上に努める。
- ⑥すべての施設のバリアフリー化を目指す等、身体障がい者にとっても快適な環境を整備する。
- ⑦教学活動や学生生活を積極的に支援する立場から、施設・設備・備品等の管理責任体制を明確にし、適切な維持・管理に努める。

1) 深草学舎における施設・設備・備品等の整備

◆空調設備の改修・増設

経年劣化が著しい紫光館の空調設備を改修した（3年計画の1年目事業）。また、安全で快適な環境を整備するため体育館に空調設備を増設した。

◆バリアフリー改修工事の実施

紫朋館において、障がい者トイレの設置等バリアフリー改修工事を行った。

◆深草図書館設備のリプレイス

深草図書館の学習環境をより充実させるため、什器類リプレイス（3年目事業）のほか、入退館ゲートのリプレイスを行った。

◆事務室移転、バリアフリー化の促進をふまえた既存施設の改修

学生総合支援及び教学支援体制を強化するため、保健管理センターや国際部等の事務室移転を行うとともに、バリアフリー化の促進をふまえた既存施設の改修を行った。

2) 大宮学舎における施設・設備・備品等の整備

◆清風館（しょうふうかん）建設工事

大宮学舎の教育・研究及び学生厚生施設を整備・充実させるため、既に取得した近隣不動産に、マルチメディア関連施設、研究室、談話室等を備えた清風館（新棟）を建設した。

◆南翼1階演習室改修及び西翼別館改修

新棟に移転する南翼1階情報教育施設の跡地を演習室に、また西翼別館の各研究施設の跡地を、研究室・会議室等に改修・整備した。また、臨床心理相談室の機能向上のため、西翼別館に備品を調達し、防音改修工事を行った。

◆西翼別館通路及び西翼南側通路・屋根工事

清風館竣工に伴う大宮学舎における動線の整備等のため、既存施設の改修を順次行った。

3) 瀨田学舎における施設・設備・備品等の整備

◆端艇部合宿所及び艇庫の増改築工事

端艇部が使用する艇庫及び合宿所に女子部員用の合宿所を増築し、1階には専用トレーニングルームを設置した。また、併せて経年劣化箇所の補修や、電気・ガス・水道・空調設備更新等の改修工事を行った。

◆瀨田学舎多目的グラウンドの改修工事

瀨田学舎多目的グラウンドの短距離走用 100m ウレタンレーンを更新し、走り幅跳び三段跳び助走用のウレタンレーンを新設した。また、砲丸投げ及び円盤投げ練習場の改修工事を行った。

◆理工学部大型研究機器の設置

理工学部の大型研究機器・設備として、安定同位体比質量分析システムとリコンフィギュアラブルメディア教育研究システムを設置した。

◆RECHALL における AV 機器の整備

RECHALL211 教室と小ホールに設置している AV 機器を更新及び新設した。(OHC、ビデオデッキ、DVD デッキ、DVD レコーダー、録音用カセット・CD レコーダー等)

4) その他の施設・設備・備品等の整備（各学舎以外の施設）

◆留学生寮（龍谷会館、大宮荘）備品等リプレイス

留学生の住環境向上のため、龍谷会館、大宮荘の備品等のリプレイスを行った。

◆禁煙サインの設置

受動喫煙を低減し、禁煙意識の向上をはかるため、敷地内全面禁煙を目指し禁煙サインを全学舎内に設置した。

◆龍谷ミュージアムの建設

社会に開かれた大学の実現に向け、創立 370 周年記念事業の一つである「龍谷ミュージアム」の建設に着工した。

◆セミナーハウスともいき荘及び留学生寮（International House ともいき）の整備

2008 年 3 月に取得したオムロン株式会社旧研修センターを、短期・長期合宿が可能な交流施設（セミナーハウスともいき荘）、および留学生寮（International House ともいき）として 2009 年 4 月より利用できるよう改修・整備を行った。

◆JR 瀨田駅近隣に本学専用バスターミナルを整備

瀨田学舎への通学環境の充実を目的に、本学専用バスターミナルを整備するため、JR 瀨田駅近隣の土地を購入した。今後、同バスターミナルから瀨田学舎に直通バスを運行するよう、バス会社や警察、地元住民との協議を行うこととする。

2 情報システム関係について

2008年度は、第4次長期計画事業の一つとして整備を進めている「ユビキタス教育環境整備事業」の継続的・発展的に推進した。

2007年度より開始したポータルサービス（シラバス・履修登録等）は、全学部を対象としたサービス提供として順調に稼働しており、さらなる機能向上を目指して開発を行う等、利用者と大学とを結ぶコミュニケーション基盤の整備を図った。

2009年度夏に予定している全学舎一斉の情報教育システムリプレイスへ向けて、新たな教育効果や目的を果たせるような情報教育システム構築を行うために、メディア教育委員会の下に検討委員会等を設置し具体的な検討を行い仕様を作成した。

また、「大学全体の情報化促進政策」として、5つのプログラム【①学生と大学との双方向コミュニケーションを活性化するプログラム ②新たな学びのスタイルを提供するプログラム ③情報を扱う上での全学法令遵守プログラム ④学生の今と卒業後の利便性を高めるプログラム ⑤事務システムを安全効率的に再構築するプログラム】を立ち上げ、具体的な検討を開始した。

1) 基幹ネットワークの整備

◆無線LAN サービスエリアの拡大

2008年度に引き続きユビキタス教育環境を整備するため、情報基盤整備の継続的な取り組みとして現在稼働している無線LANサービスのアクセスポイントを増設することとなり、利用エリアを拡大し、ネットワーク利用の一層の促進と利用者の利便性の向上を図った。

◆大宮学舎におけるネットワーク見直し

大宮学舎におけるネットワークを今後、清風館を含めより汎用的かつ拡張的にするため、ネットワーク機器類の再配置を実施した。

◆学内メールのウィルスチェック強化

ウィルス、迷惑メールチェックサーバによるフィルタリングサービスの継続的な実施や精度の向上を図るなど、情報セキュリティの観点から運用の最適化を図った。

2) 情報教育環境の整備

◆情報教育リテラシー支援プログラム

ICTを活用した教育への対応として、全学共通の情報教育リテラシー支援プログラムを継続的に実施し、学生の情報教育リテラシー理解度の確認と向上を図った。2008年度からは理工学部も本プログラムに参加し2007年度実施以来、初めて全学で実施することとなった。

◆普通教室マルチメディア教育環境の改善

多様なメディア機器を利用した効果的な授業の推進と継続的な教育環境整備を図るため、2008年度は4カ年計画の2年目として、深草学舎(2・21号館)・瀬田学舎(3・4・5号館)のプロジェクター等メディア機器類のリプレイスを行った。

◆eラーニングシステム等の活用

eラーニングシステム導入2年目として、自主学习支援のための「eラーニングシステム」、授業等映像配信のための「ストリーミング配信」の充実を図った。特に、LMS「Moodle」を使ったeラーニングシステムは108科目(コース)で42名の教員が活用し利用者が増大した。

3) 事務システムの整備

◆Web履修登録の全学的サービスの開始

2008年4月より、7学部1短大を対象としたWeb履修登録（予備・事前登録を含む）サービスを開始した。これまでは、所属学部教務課等に、直接足を運び履修登録の申請用紙を提出するという形態をとっていたが、自宅等のPCからインターネット経由で行うことが可能となり、学生の利便性の向上につながった。

◆ポータルサービスの拡充

新たな情報提供サービスとして、学生が自分自身の登録状況や登録科目の休講・教室変更などを参照できる「マイ時間割」機能の提供を行った。後述する携帯電話向けサービスと同様に、学生個々に対して情報を発信することで、学生へのダイレクトな情報配信が可能となった。

◆携帯電話向けサービスの開始

利用者である学生からの強く要望されていた携帯電話向けのポータルサービスとして、PC版では提供していたマイ時間割や休講・補講・教室変更の情報提供を開始した。よりタイムリーに情報を得ることができる等好評であった。2009年以降、提供内容の充実を図る予定である。

◆新規機能の開発

定期試験の採点作業は採点票に手書きで記載する方法となっているが、転記ミスを誘発する、利便性に欠ける等の指摘があった。改善方策として「Web採点報告」機能の開発に着手した。理工学部の協力を得て20名の教員が試用し、フィードバックを受けているところである。今後は、関係部局と協議の上、2009年度より本格運用を行うべく計画している。